

六甲最高峰トイレ



六甲の山並みに呼応するように折れ繋がる軽い木の屋根 ※



様々な居方を誘う軒先や家具 ※

[建築概要]

用途 / 公衆トイレ、休憩スペース
 延床面積 / 267.91 m²
 構造 / 鉄骨造 (屋根 CLT パネル)、一部木造
 階数 / 平屋建

外部仕上 / CLT: ヒノキ杉ハイブリッド (県産材)
 屋根 CLT+ 金属板葺
 柱 St 丸鋼 + 溶融亜鉛メッキ素地
 外壁 CLT+ スギ下見張 + 木材保護塗料

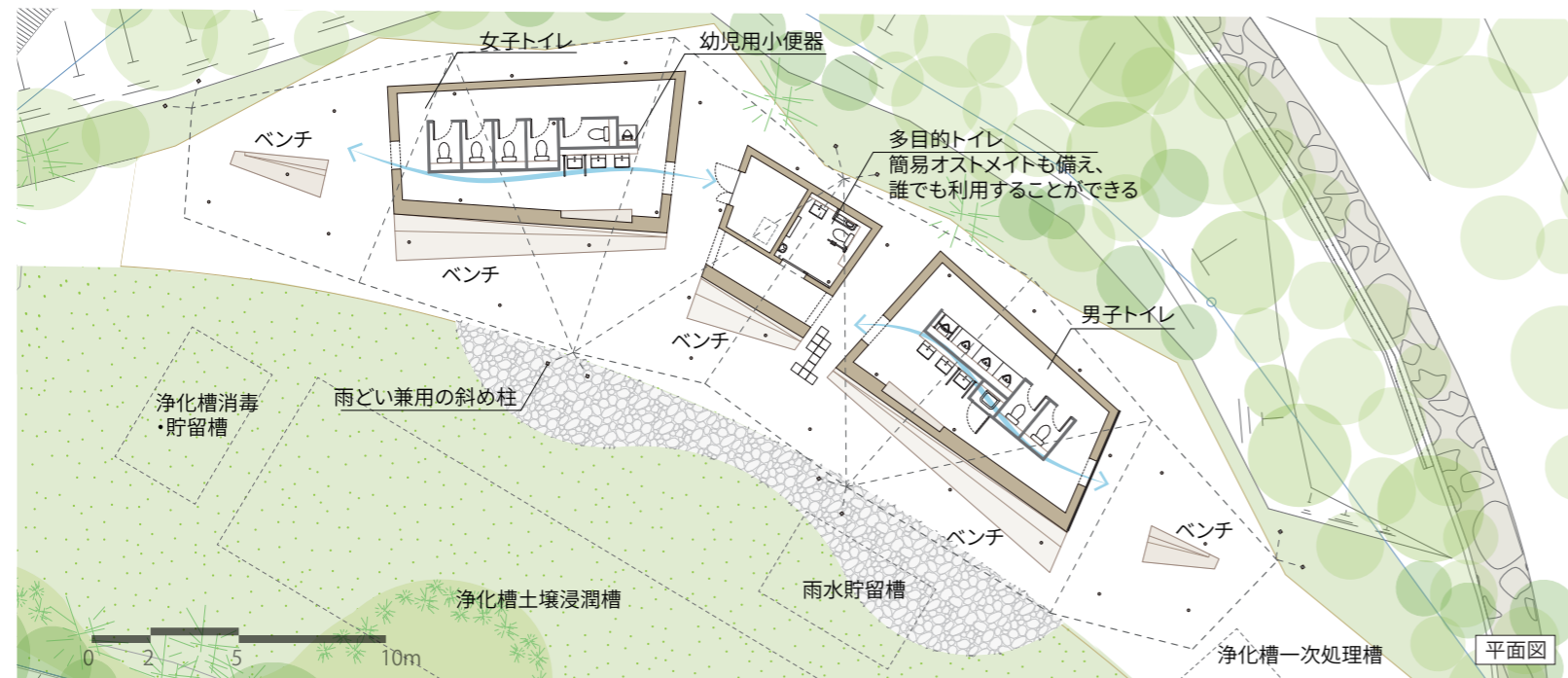
内部仕上 /
 壁 ラーチ合板突付張
 天井 CLT 現し



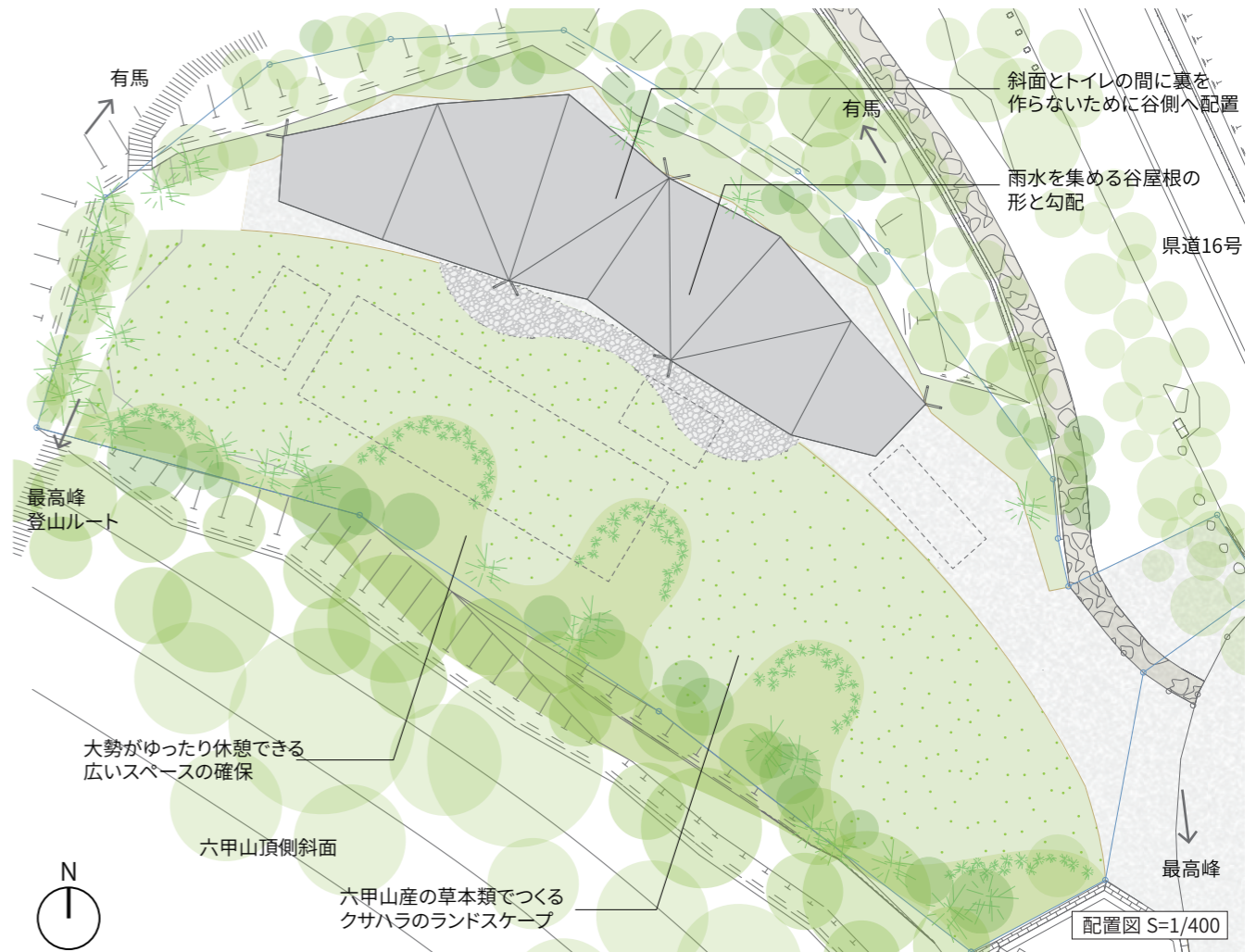
みんなが使いやすいゆとりをもたせた内部空間 ※

■ 山並みのような折れ屋根とクサハラのランドスケープでつくる豊かなレストスペース

神戸の都市の魅力の一つである六甲山の価値向上、環境整備の一環として、六甲山頂エリアに新設された公衆トイレ・休憩スペースと園地の計画である。山並みに呼応するように折れ繋がる薄い木の屋根が、大きな家具のようなベンチの上に軽快に浮かぶ。国立公園の自然に調和する木や仕上の色合いで、六甲山の環境になじみ、のびやかな景観をつくる。深い庇の軒先を下げ、雨の降り込みを抑えることで、雨天時にも利用しやすく、外壁も保護している。CLTは県産材指定のスギヒノキ、外装材及びベンチは主に国産材スギを使用した。一部は神戸市が森伐採した六甲山の間伐材を利用し、地域の木で仕上げている。園地には六甲山の自然をより豊かに維持する、地域植生によるクサハラのランドスケープを計画した。



光と風の通る安心して使いやすい計画



山並みのような折れ屋根とクサハラのランドスケープでつくる豊かなレストスペース

六甲最高峰トイレ

01. 地域産木材を使用し、産地との関係などの工夫

■ 六甲山系間伐材の活用と木の自然の色を活かす塗装

屋根版 CLT は兵庫県産材指定のヒノキスギ、トイレ部分の外装材およびベンチには、国産材スギと一部は神戸市が森林維持として伐採する六甲山系の間伐材を利用した。設計期間中に六甲山材の材種保管状況を確認し、施工段階では材料寸法の指定に幅を持たせ、ばらつきのある材をできるだけ使おうと考えた。塗装は浸透系の木材保護塗料でトーンを揃える程度とし、木の自然の色を活かした、傷みにくく維持しやすいつくりとした。



伐採・保管された間伐材

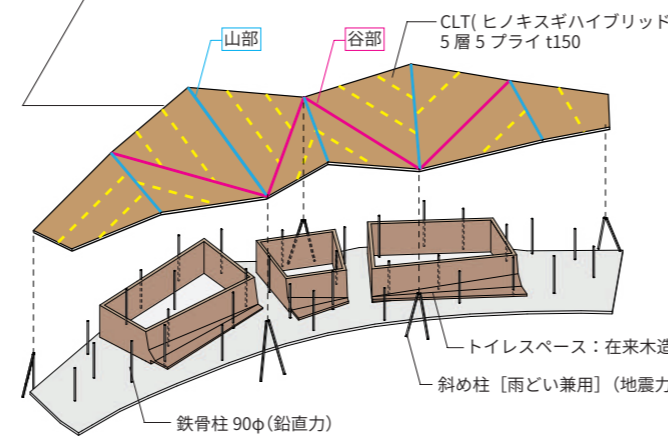
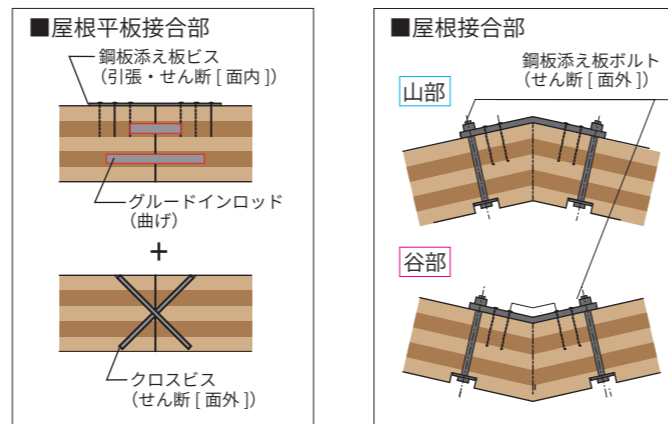


六甲山系の間伐材を活用したベンチ※

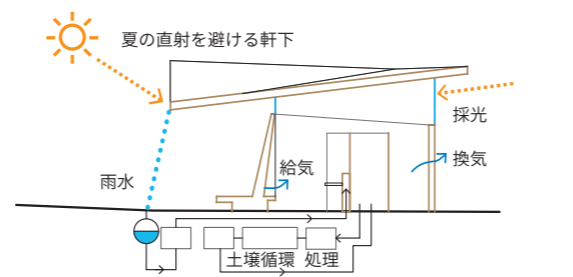
02. 木材の利用を進める構法、新たな用途への工夫

■ 軽く浮かぶ木の屋根とすっきりとした屋根下空間を実現した CLT+鉄骨造

上屋は、CLT による折板構造の屋根を鉄骨柱で支持している鉄骨造である。一辺 4m~12mの、四角形もしくは三角形の木のパネルを、角度を変えて繋げることで、複数の棟(むね)をもつ勾配屋根ができる。それらを華奢な鉄骨で、ランダムに支持することで、屋根の下に大きな空間をつくっている。トイレ部分は上屋とは構造的に切り離れた在来木造とした。



構造計画のダイアグラム



環境計画のダイアグラム



建方・接合の様子



繊細な柱によって空中に浮かび、シャープなラインを作る CLT の薄い屋根※

■ 安心して利用できる浄化槽システムと雨水利用システム

上下水道が整備されていない中でも、水洗トイレとして使えるよう、浄化システムを埋設し、洗浄水は循環利用としている。また、屋根の谷で雨水を集めるようにデザインし、手洗い水として再利用するシステムとした。土壌槽や雨水槽は地中埋設として、上部は園地として広いスペースを確保している。

03. 居住性やデザイン性を高めるための工夫

■ 抑揚のある屋根下空間と多様な居場所をつくる台形のベンチ

折れつながらすることで、天井高さが場所によって変わり、空間に抑揚をもたらしている。屋根と外壁の間は透明材として光を取り込み、屋根の軽さを際立たせている。高さを抑えて、自然の中に伏せるような屋根は景観になじみ、その下にゆったり過ごせる多様な居場所を作り出している。ベンチは大きな台形とすることで、様々な座面の奥行きや背の角度が生まれ、休憩の居方を多様にしている。



異なる角度、大きさのベンチと多様な過ごし方※

04. その他、環境保全や街並み形成への工夫

■ 地域植生でつくるクサハラのランドスケープ

国立公園特別地域内に位置するため、創出するクサハラはその場所固有の植生に最大限配慮し、できるだけ地域植生で構成した。設計期間中に WS として参加者を募り、草本類は六甲山系の場所で採集した種から育苗した苗もしくは現地採取の株で植栽した。育苗は兵庫県立人と自然の博物館に委託された。これら全てが現地の地域植生といえ、四季の彩り豊かなクサハラの状況を作り出している。今後の手入れについても市民参加の機会を持ちたいと考えている。



トイレと園地、それぞれが新しい視点を生み出している



やわらかな曲線の連続でできたランドスケープ※

クサハラのランドスケープができるまで

タネ取り



育苗(県立人と自然の博物館)



現地植付



根付き始め

